

奨励賞（神奈川県立青少年センター館長賞）

戦争を知らない私たちへ

横浜市立生麦中学校 2年 田邊 ことみ

今年、二〇二五年、第二次世界大戦が終結して八〇年が経過しました。戦後八〇年に関する記事やテレビ番組を度々見かけ、「戦争とは何か」「平和とは何か」を改めて考えました。私たちが今、安心して毎日を送っているのは戦争後の八〇年があったからです。戦争というものを実際に見たことも、経験したことではありませんが、八〇年たった今でも語り継がれているという事実が、戦争というものを風化させず、こうやって私たちが戦争について考えるきっかけとなっていると思っています。そこで、二つの問い合わせて考えてみました。

一、加害と被害、私達はどちらの視点で戦争を語っているか？日本の戦争経験は「被害者」として語られがちですが、「加害」として歴史とどう向き合うべきか考えました。

日本は「被害者」でも「加害者」でもあります。日本が他国にしたこと、そしてされたことを初めて全体的に調べてみたのですが、改めて戦争の恐ろしさを再確認しました。この事実を知った上で日本が被害者だとか、加害者だとか、私が判断できるものではなく、誰かが個人の意見で無責任に主張するのはあまりにも不正確だと感じました。戦争という極限状態では、国や人は同時に両方の立場に立つことがあります。ただ、戦争という行為はこの解釈だけで終わってはいけないと思います。

「どっちもどっち」のようなどちらにもなれる中途半端な視点で終わらせずに、もっとお互いの責任を分かち合うことが大切です。そしてその事実を決して風化させず、後に戦争をする行為を避けるために絶対に伝え続けなければいけないと考えました。

二、平和は当たり前なのか？平和が日常となった今、私たちは平和のことをどれだけ意識し、守る努力をしているか？

小さい頃から NHK の連続テレビ小説を見るのが好きで、今でも見ています。連続テレビ小説の歴史上の人物や昔の出来事についての物語に、必ず存在する描写があります。それは、戦争についてです。毎回戦争のことを見るのは辛いけれど、当時の人の悲しみや様々が分かる気がします。必ずしも当時の状況がテレビのドラマだけで分かるものではなくても、すごく悲しみが伝わってきます。このような形で実際、私たちのような後世に伝わ

っています。たとえ気持ちが薄れてしまったとしても、私たちが色々な形で後世に伝えていきたいと考えています。それが、今私たちができる唯一の事なのです。

平和そうに見える今の世の中でも、平和が当たり前とはいいけません。ただ、今の幸せに、私たちは十分に感謝できているでしょうか？今でも、世界では戦争が続いている、私たちが住んでいる日本でも、厳しい財政や、安全保障の不安などが広がっています。それでも、幸せに暮らしていることを心から感謝したいです。当たり前のように学校に行けていること、ご飯が毎日食べられること、一人ひとりが好きなことができて、尊重されていること。どれも当たり前だと思い込んでいるだけで、本当はすごく幸せなことです。私たちは、過去の戦争についてもっと知るべきだと思うし、「平和が当たり前ではない」ということに気づけることが、今の戦後八〇年において一番大事なことなのかもしれません。「なんで戦争は起こったんだろう」「逆転しない正義ってなんだろう」というような問いこそ、私自身の気づきや気持ちへと変化し、戦争が一〇〇年、二〇〇年と語り継がれていくのです。一番大切なのは、今です。大いなる感謝をもって戦争というものを忘れることなく、一日一日を大事に過ごしていきましょう。